

スポーツ

全日本選手権に挑む 熊倉 美咲 選手28 (戸田中央総合病院)



ボートコースで練習する熊倉美咲さん(戸田公園で)

ボート有終の大会へ

2008年の北京五輪に出場するなどボート界の第一線で活躍してきた熊倉美咲選手(28)が、今シーズン限りでの引退を決め

た。今年5月の全日本軽量級選手権で優勝したばかり。引退を惜しむ声はあるが、「未練はない」と言い切る。

北京五輪では軽量級ダブルスカルに出場し、日本女子で過去最高の9位に入った。「オレンジ1個食べるのも怖かった」ほどの、厳しい体重制限(57kg以下)を乗り越えた末につかんだ結果だった。

ところが、五輪から帰国すると、ボートをこぐ足に力が入らなくなった。原因不明のスランプ。タイムはガタガタと落ちた。「五輪出場選手なのに、大したことはないね」。そんな陰口をたたかれていた気がした。

足の感覚は突然、1年後に戻った。タイムは好転し、昨年の全日本軽量級選手権大会で上位入賞も果たした。見事な復活劇だったが、このことが心に微妙な影響を及ぼした。2010年秋、練習中にくら思った。「もう満足だ。普通の生活を送りたい」

ボートは、県立浦和第一女子高に進学してから始め

た。ボート部で「舵手付きフォア」と呼ばれる5人乗りの種目に打ち込んだ。1年生からレギュラーとして活躍し、3年生の時には国体で優勝した。

進学した早稲田大でもボート部に入った。1年生の夏に出場した大学選手権で、1人乗りの「シングルスカル」で優勝。2年生からナショナルチームの強化合宿に参加するようになった。そして五輪出場――。

トントン拍子でつかんだ栄光。だが、アスリートには珍しく「勝ちたい気持ち」が弱いのがコンプレックスだった。応援してくれる家族や職場の仲間、監督に喜んでもらいたかったから頑張ってきた。

現在、9月の全日本選手権大会を目指し気力を振り絞っている。毎朝5時から2時間、戸田市のボートコースで練習し、病院事務の仕事を終えた夜に12kmの距離を走り込む。お世話になった人に優勝カップを見せ、有終の美を飾るために。